文化情報論分野の教育と研究のコンセプト　新任教員に期待すること

●文化情報論分野の目指す教育と研究

文化情報論分野では，人文学の諸領域を「情報」という切り口からとらえ直し，現代の社会や文化への関心に動機づけられた実践的な研究と教育活動を進めることをめざしています。

・研究対象としての「情報化社会・情報文化」と，教育目標としての「情報活用能力」

文化情報論分野では，既存の学問分野に限定されることなく，広い意味での「情報」にかかわる専門領域の研究教育スタッフを擁し，これらが共通の枠組みから密接に協力して学際的な研究教育に取り組むスタイルを特徴とします。

文化情報論分野で共通している枠組は以下の通りです。

研究対象としては，広い意味での現代の「情報化」社会や情報文化にかかわる諸問題に取り組み，

研究手法においては，経験的・実証的なデータにもとづいて分析考察を行うこと。

教育においては，広い意味での「情報」活用能力を高めるために，情報の収集，分析，編集，応用，表現,情報システムの習熟といった習得目標をかかげ，さまざまな学問の方法論や資源を利用すること。

以上が，文化情報論分野で共有する枠組として挙げられます。

・情報活用教育を核とした学問融合的な教育

これらの共通要素のもと，学生教育においては，それらの複数の領域が分野内で独立・並行して活動するのではなく，異なる学範（discipline）間の敷居を取り去って共通の目的をめざす学融(trans disciplinary)的方法を採ります。

スタッフそれぞれの専門領域の特長を活かしながら，専門導入教育から各種の実習，卒論指導に至るまで，専門の枠を越えて相互に協力補完した系統的なカリキュラムが組まれています。その結果，学生はそれぞれの専門領域に深くかかわりながらも，固有の学問領域にとらわれず，社会で通用する幅広い情報活用能力を養うことができます。いわば一つの領域のスペシャリストでありながら，幅広い視野と柔軟な応用力を備えたゼネラリストを育成することを目標としています。

※新任教員に期待するのは，ご自身の研究教育領域が，現在のスタッフがカバーする領域と共通性を持ちながら完全には重なることはなく，かつ協力・連携した教育体制を構築することが可能であることです。

2012年現在のスタッフがカバーしている専門領域は，以下の三領域です。

・ことばという情報処理を扱う社会言語学・言語地理学

・人間の心の情報処理をテーマとした認知心理学

・消費社会と消費文化の様相を分析する消費社会学

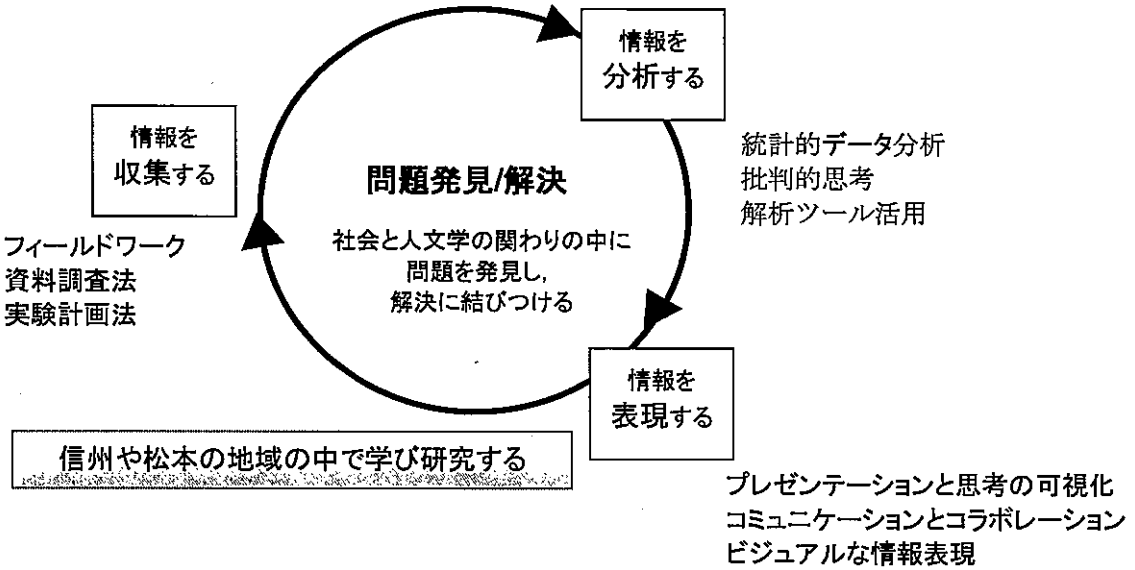
なお2011年以前には，文化社会学,図書館情報学,地域経営,科学技術論などの領域のスタッフが在籍していました。

●　実践的な情報活用能力を鍛える

文化情報論分野の教育カリキュラムの中で重視しているのは，領域横断的な「情報活用力」の伸展です。これは，高度情報化社会の中で，自律的に知的生産・問題解決能力を発揮し，将来を切り開い

ていける力の獲得とも言えるでしょう。具体的には，現実の社会や文化の中に課題を見つけ出して解決に結びつける実践的な「問題発見/解決」力を中心に，それを支える「情報収集」「分析」「表現」力という三本柱を位置づけています。そして，これらの枠組みをもとに，2012年には具体的に下図のような達成課題（授業・実習など）が用意されています。

文化情報論分野では，このサイクルの中で，さまざまな学問のリソースや方法論が取り入れられ，継続的に学生の能力向上をはかるためのカリキュラムが組まれています。



上図の情報活用教育の達成課題の内容は，社会との関わりの中で常に見直され更新さていきます。すなわち，教育活動において文化情報論分野は常に先進的な試みを続けていく場でもあります。

ひとりひとりの教員は，自らの学問的バックボーンをもとにした教育を展開するとともに，研究分野にとらわれることなく，学生たちと協同して，独自の「情報活用」にかかわる実践を展開します。たとえば，次項に述べるような地域ブランドについての社会調査や，デジタル加工したグラフィック作品の制作と発表，信州の方言調査などが行われています。

新任教員にも，上記の観点から独自の情報活用教育を展開していただきます。この点で，研究だけでなく，多くの学生を巻きこんで共に実践活動することに情熱を持っていただける方を期待します。

地域社会との連携

教育・研究の両方において，地域との関わりを重視します。地域社会を実践フィールドとしたプロジェクト・ベースト・ラーニング（PBL）を実習に組み込み，地域との共同研究などに積極的に取り組んでいます。たとえば，信州地域の市町村などの自治体と連携し，地域ブランドや観光資源の調査研究などを，学生の力を発揮させながら継続的に行っています。また，全学生の研究成果発表の場としての公開フォーラムや，グラフィック作品の作品展の開催といった市民に開かれた活動は，十年以上継続的に開かれています。

加えて，社会で通用する実践能力を向上させるために，必修の実習の中で情報処理推進機構・情報処理技術者試験の受験を義務づけ，指導を行っています

文化情報論分野の教育研究活動については，webページ（「信州大学人文学部」→「学科・コース・分野」→「文化情報論コース」）をご覧下さい。